



アマチュアオーケストラ

新交響楽団 第256回演奏会

The New Symphony Orchestra – 256th Concert

指揮 矢崎 彦太郎

YAZAKI Hikotaro, conductor

メンデルスゾーン

交響曲第3番イ短調「スコットランド」1842年ロンドン稿

Felix MENDELSSOHN BARTHOLDY (1809-1847): Symphony No. 3 "Scottish" in A minor, Op. 56, London Version, 1842

プーランク 組曲「牝鹿」

Francis POULENC (1899-1963): "Les Biches" Suite for Orchestra, 1939

ビゼー 「アルルの女」 第1組曲・第2組曲より

Georges BIZET (1838-1875): "L'Arlésienne" - Selection from the Orchestral Suites No. 1 and No. 2, 1872

1. プレリュード Prélude
2. パストラール Pastorale
3. 間奏曲 Intermezzo
4. アダージェット Adagietto
5. メヌエット Menuetto
6. ファランドール Farandole

Design: IMAO Keisuke

池袋駅西口 Ikebukuro Station, West Exit

13:00 開場

2022年1月9日(日) 東京芸術劇場コンサートホール 14:00 開演

Sunday, January 9, 2022, 2:00pm (doors open at 1:00pm) at Tokyo Metropolitan Theatre, Concert Hall

入場料 S席: ¥3,000 A席: ¥2,000 (全席指定)

チケットのお申し込み: 新交響楽団ホームページ <http://www.shinkyō.com/>

チケットのお申し込み・お問い合わせ: コンサートイマジン 03(3235)3777 *10:00 ~ 18:00 (日曜・祝日を除く)

- ・客席内でのソーシャル・ディスタンス確保のため、ご購入できるお座席を一部制限しております。
- ・感染予防及び公演当日の混雑緩和のため、チケットの事前予約・引き取り・購入をおすすめいたします。

*点字プログラムを若干部用意しております。入口でお渡しいたしますので申し付けください。

*おそれいりますが未就学児のご入場はお断りさせていただきます。託児サービスをご利用ください(予約制・詳細は裏面)。

新交響楽団のホームページ <http://www.shinkyō.com/> 演奏会案内や曲目の解説、これまでの活動記録などがご覧いただけます。

メンデルスゾーンの傑作「スコットランド」

ドイツロマン派の作曲家メンデルスゾーンは、とても裕福で教育熱心な家に生まれ、音楽だけでなく絵画や文学、外国語にも堪能な神童でした。

交響曲を5曲残していますが、第3番が最後に作曲された交響曲です。メンデルスゾーンはイギリスを何度訪問しており、スコットランドに旅行した際に訪れたエディンバラのホリールード宮殿に着想を得て作曲されました。筆の速かったメンデルスゾーンが12年もかけた自信作で、美しい旋律と豊かな抒情性に溢れ、スコットランドの自然が目に浮かぶようです。一般的に演奏されるのは1843年改訂版ですが、今回は1842年ロンドン稿を使用して演奏します。

メンデルスゾーンは脳出血により38歳の若さでこの世を去りました。一時はワーグナーが批判しナチス体制から演奏禁止とされましたが、近年再評価・研究され大作曲家として認知されています。

ビゼー、不朽の名作「アルルの女」

パリに生まれ声楽家の父とピアニストの母を持つビゼーは、9歳でパリ音楽院に入学する神童で、優れたピアニストでしたが、オペラ作曲家を目指しました。36歳の時に作曲した歌劇「カルメン」の初演が不評に終わり、3か月後失意のうちに敗血症により亡くなりました。

「アルルの女」の物語は、南フランスの町アルルの闘牛場で見かけた女性に一目惚れした青年が、婚約者との結婚を決意するも、自分の婚礼の日にアルルの女が別の男と駆け落ちすると聞いて嫉妬から自殺するという悲劇。しかしその音楽は楽しく躍動的なものが多く、広く親しまれています。

劇付随音楽の原曲は極めて小編成（木管各1〜2本、金管はホルンのみ）ですが、第1組曲はビゼー自身が4曲を選んで通常の編成に書き直したものです。第2組曲は死後に友人のギローが完成させたもので、有名なメヌエットは実はビゼーの歌劇「美しきパースの娘」からの転用です。今回は2つの組曲から6曲を選び物語の順に演奏します。

どうぞお楽しみに！（H.O.）

ご来場いただくお客様へ（新型コロナウイルス感染症対策）

当日はご自宅で検温していただき、マスク着用にてご来場ください。37.5℃以上の発熱、咳・のどの痛み・倦怠感等の体調不良がある方、過去2週間以内に感染が引き続き拡大している国・地域への訪問歴がある方は、ご来場をお控えください。

会場入り口でご来場の皆様の体温を測定いたします。会場内ではマスク着用し、咳エチケットやこまめな手洗い、手指消毒をお願いします。ほかの人との距離できるだけ空けるようにし、大きな声での会話はお控えください。

クローカーサービスとドリンクコーナーは休止していますのでご注意ください。また出演者への贈り物はお控えください。

体調不良等が認められる場合は、ご入場をお断りする場合があります。なお、体調に不安がありご来場をお控えいただく場合や、当日の検温の結果入場いただけない場合は、チケット代

を払い戻します。

詳しくはホームページにて注意事項や公演の最新情報をご確認ください。これらのお願い事項につきましては、状況により変更になる場合がありますので、ご了承ください。

今後の演奏会予定

<第257回演奏会>

2022年4月29日（金祝）14時 東京芸術劇場

指揮 飯守 泰次郎 曲目 ブラームス/交響曲第4番 他

<第258回演奏会>

2022年7月18日（月祝）14時 東京芸術劇場

指揮 坂入 健司郎 曲目 ドヴォルザーク/交響曲第9番
「新世界より」 他

新交響楽団のプロフィール

新交響楽団は1956年に創立されたアマチュアオーケストラです。音楽監督・芥川也寸志（1925-89）の指導のもとに旧ソ連演奏旅行、ストラヴィンスキー・バレエ三部作一挙上演、10年におよぶ日本の交響作品展（1976年にサントリー音楽賞を受賞）、シヨスタコーヴィチ交響曲第4番日本初演など意欲的な活動を行ってきました。

またマーラーの交響曲全曲シリーズ（山田一雄指揮、1979〜90）、ベルリン芸術週間への招聘・邦人作品演奏（石井眞木指揮、1993）、伊福部昭米寿記念演奏会（2002）、石井眞木遺作「幻影と死」完全版初演（高関健指揮、2004）、ワーグナー「トリスタンとイゾルデ」演奏会形式公演（飯守泰次郎指揮、2006）など、幅広い活動を積極的に展開しています。

維持会のご案内 ～良いお席を安く～

新交響楽団維持会は、新響の演奏活動にご賛同いただき支援して下さる方々の組織です。集まった会費は、楽器購入や演奏企画に活用しています。会費は一口10,000円で、2年間有効の5枚綴りの回数券（どの演奏会でも一度に何枚でも使用可能）を差し上げます。良いS席を優先的に確保いたしますので当日その中からお選びいただけます。お申込みは郵便振替にて直接会費をお振込みください。郵便振替口座：00130-0- 28074「新交響楽団維持会」

団員を募集しています

音楽監督の故芥川也寸志が長年にわたって主張し続けてきた「音楽はみんなのもの」を実践し、常に新しい視点を持って活動していくために、新しい力が必要です。何はともあれ、ぜひ一度練習をご覧ください。見学・オーディション等のお問い合わせはE-mail：shinky@music.nifty.jp

練習は毎週土曜日午後6時〜9時、東京芸術劇場（池袋）、クラシック・スペース☆100（大久保）他にて。

演奏会当日の託児サービスのご案内

東京芸術劇場でのご鑑賞の際には、施設内の託児室をご利用いただけます。土日祝日を除く公演日一週間前までにご予約ください。対象年齢：生後3ヵ月から小学校入学前、1公演あたり2,200円（税込）お問合せ：株式会社ミラクス ミラクスシッター、電話0120-415-306（平日9:00〜17:00、土日祝日休み）